

# 今も語り継がれる 門打ち



砂子又(里)



大 利



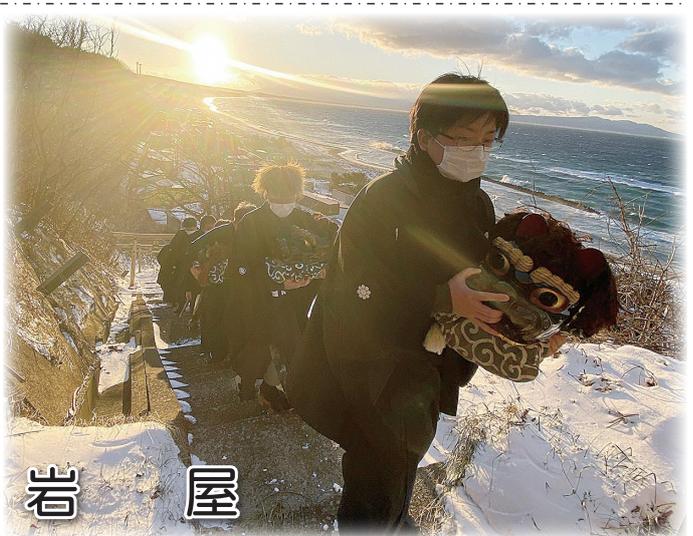
鹿 橋



古野牛川



尻 労



岩 屋

正月に各戸の門口(玄関)に立ち、さまたて(唄)に奏し、権現舞(祈祷舞)を舞い、その夜には手踊り等を披露して歩くことを“門打ち(かどうち)”と言い、全国的には『獅子舞(ししまい)』が知られています。

門打ち(能舞、獅子舞、神楽)は、村落の若者たちが一団となって、拍子をつけて歩きます。権現獅子を持って家々を回り、玄関先で獅子頭を振り、悪魔退散を祈って災害から守ろうとするのです。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、開催できませんでしたが、今年は一時的に落ち着きを見せたこともあり、門打ちをする姿を見ることができました。【撮影・写真提供のあった地区のみ掲載】

# 村内各地のお正月

## 漁祈禱



岩屋地区では、『漁祈禱(りょうきとう)』といって、部落会・青年会・漁業協同組合などが共同して、海上安全・大漁祈願・商売繁盛・健康などを祈願する風習があります。漁祈禱は古くから1月2日の門打ちの後、42歳(男)の厄祓いと併せて行われています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で門打ちの時間を短縮し、1月1日の夕方に行われました。

厄年を迎えた男性と女性は、門打ちの際に地域の門打ち等で使う身近なもの(扇子・肌着など)を奉納し、厄を払ってもらいました。今後も受け継がれていってほしいお正月行事です。



## 苗どり

- ①苗どりに向かう子どもたち
- ②玄関口で「苗をとーりましょ♪」
- ③苗に見立てたお菓子・御花をもらいました!
- ④みんな頑張りました!



砂子又地区に伝わる小正月の伝統行事『苗どり』は、毎年1月14日に子ども達が各家々を回り、苗に見立てたお菓子・御花をもらい(苗をとーり)、16日に婦人会が行う『田植え餅つき踊り』に引き継ぐ(新型コロナの影響で未実施)という、砂子又地区の子どもたちが長年繋いでいる伝統行事となっています。

14日の夕方、13人の子ども達は各家々を回りはじめ「ごめんください！春の初めの苗どりに来ました！苗をとーりましょ♪苗をとーりましょ♪」と元気な声で謡って苗どりし、お菓子や御花をもらっていました。